

教育勅語と現代の教育

東京文理科大学々長
文學博士 大瀬 甚太郎

私は自分の意見を次の三段に別つて説明するのが便宜であると考へる。

- (一) 教育勅語渙發と其の時代
- (二) 教育勅語に對する教育者の心懸
- (三) 教育勅語渙發以後の教育の傾向

明治二十三年に教育勅語が渙發された時の世態は、普通の史書に詳である。つまり新舊二流の思潮があつて、時代人は其の歸趨に迷うた。既に五事の御誓約にも「智識ヲ世界ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起スベシ」とあつて、西洋の進んだ文化を新に吸収して、爾後の發展に資することは、維新當時の國是であつたが、後にはそれが過ぎて、西洋崇拜の傾向を生じ、随分極端にまで趨つた。そこで當然反動思想が起

つて、これでは日本が洋夷化されて了ふ、我々は飽くまでも日本の國粹を守らねばならぬと云ふ主張が或る一部から出た。そして所謂進歩と保守との兩思潮が強く闘はれた。斯うなつて來ると教育なども何れの思潮に随つていゝのか、其の適歸する所に迷うた。教育勅語は實に此の時に渙發されて、思想界の燈明臺として燦然たる大光輝を放つたものである。後世から觀れば、種々の臆測も加へられるであらうが、我々は急進的傾向と保守的傾向との闘争を一段高い所から見て調和する立場から渙發せられたのが教育勅語であつて、其處に一つの正しい進歩が見られると思ふ。いつの時代、又何れの國の個人生活を見ても、團體生活を見ても、進歩が一直線に爲されることは殆ど無からう。必ずや反對の思潮があつて相争ひ、其處に何人かに依つて正しい道が示された結果、初めて高い階段への進歩が爲されるのである。教育勅語は恰も其の意味に於ての最も好き指導者であつたのである。近頃も頻に思想國難が唱へられ、危険思想が云々されるが、眞に危険と見られるのは、偏した思想が勢力を得て來た場合であつて、思想的衝突が一段高い立場から調和されて、文化が高い正しい階段に導かれるならば、それは結局進歩である。

教育勅語には、實に好く其の精神が現されてゐる。「我カ皇祖皇宗ノ遺訓」と宣ひ、「爾祖先ノ遺風」とは仰せられてあるが、決して一にも二にも古風に拘泥して保守的であれとも、又、狹隘な主義を採れと

も、軍國主義がいゝとも仰せられてはない。こゝに聖勅の廣大にして深遠なる御趣意が存する。

二

そこで次には、此の廣大深遠なる教育勅語に對し奉つて、實際の教育に従事する者は、如何なる心懸を持つべきかと新に問題となつて来る。近頃一部少數の左傾的な人々は四十年前に渙發された此の聖勅に對して、彼是論議をしてゐるが、教育勅語は、「之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ、之ヲ中外ニ施シテ悖ラ」ざる日本の大精神を宣べさせ給うたのであるから、萬古を一貫して秋毫も渝るべからざるものがその中に存するのである。渙發されたのは四十年前でも、其の示させ給うた大綱は、今後も永久に不變である。

しかし聖勅に宣し給うた所は、教育の大綱であるから、之を實際に應用するに當つては、十分によく御趣意を奉行して謬らざることを期せねばならぬ。妄に狭い自分の了見に當て蔽めて、自分の立場に都合よく解釋するが如き事があれば、それは却つて大御心に反するものである。どんな尊い銘刀でも、未熟な人の手に渡れば、用を爲さない譬の如く、聖勅に示させ給ふた教育の大綱を、事實上に發揮するのは、一に繋つて教育者の心懸に存するのであるから、飽くまでも聖勅の御本旨を固く守つて、忠實に之に従ひ、時に應じ場合に處して適正に其の時代の問題を解決してゆくことが必要である。

三

次に教育勅語渙發後は、社會狀態が著しく變遷したので、随つて現代日本の教育には三個の傾向が見られるに至つた。第一は個人の個性、人格を十分に發展させること、第二は教育を社會化すること、第三は職業的教育を施すことの三點である。個人に價値を認めることは近世の著しい現象であつて、それがやがて又教育普及の原因にもなつた。機會均等の主張、劃一主義打破の絶叫が行はれて、教育は各個人の性質と必要とに應ぜねばならぬものだと論ぜられた。又、米國では學科課程の人道化が叫ばれて、在來の學科課程は或る階級にのみ都合の好いやうに出來てゐる、そんな偏した學科課程は非人道的だと云はれた。日本の義務教育でも最初の間は、少數の偉い人間、即ち大將とか大臣とかを養成するのが目的で、随つて小學校を出ると直ぐに社會へ出て働く人々には不適當な教育が與へられてゐた。米國人が非人道的だと叫んだのは、其の種の教育であつて、社會で最も多數を占めてゐる下層の人民にも適するやうな學科課程に改めて、各個人それだけの個性人格を十分に發展させねばならぬとするのが、主張の骨子である。此の問題は當然第三の職業的教育とも聯關する。

第二の教育の社會化といふ事は、教育を施す事に依つて生徒を社會的に能率の高い人間とする事であるが、此の事は、凡て生徒は將來國民として立つて行くものであるから、國民として國家の爲に好く働く者を仕立てねばならぬと云ふ考から主張されてゐるが爲に、現在歐洲各國が採つてゐる方法を見ると

其の教育は頗る傳統的的色彩の強いものになつてゐる。先づ獨逸は産業の獎勵に力を傾けてゐるが、決して在來の國家主義を捨てたのではなく、軍國主義に訴へる事が出來ない爲に、産業の基礎の上に立つて世界を征服せんとする意圖が見られる。佛蘭西も亦國家的觀念の養成に力を致してゐる。佛蘭西の中等教育は一九〇二年以來屢々變つたが、今日では數學・自然科學を主とする傾向は變つて、古典を主とする傾向が勢力を占めてゐる。斯くして佛蘭西青年に、地中海沿岸文化及び全歐文化に於て佛國が有する文化的・政治的の使命を悟らしめようと云ふのである。伊太利も亦古代ローマの後繼者としての使命を青年に悟らせる爲に、中學校では、國民文學、人文的精神的學科を中心に置いて教育をしてゐる。其の他英國もアングロサクソンの精神を何處までも維持せんが爲に、教育の機會均等を圖つてゐるし、海を越えて米國へ行つて見ても、これ亦米國を世界一にせんが爲に努力し、デモクラシーに傳統の尊さを認めつゝ米國に依つて諸國民を共存共榮に導くべく世界をアメリカナイズせんとする信念の下に教育を施してゐる。是等は我々の大に注意すべき事であると思ふ。

最後には職業的教育の問題であるが、近來は教育が普及されて教育が國民一般のものとなつた結果は教育の内容を今一層實際的にせねばならぬとの考が起つて來てゐる。此の點から見ると、佛蘭西や伊太利で、中等教育を古典的として、實用的な數學や自然科學を附屬學科としたのは、時代の新要求に反す

るものであるが、小學校及び實業學校では職業的、實用的な學科に力を盡してゐる。此の二つを相離して考へるのは、結局双方共に目的を達せしめないもので、只古い事のみ即して實際に觸れない事に成つては、却つて其の古典的な教育の効果を弱める虞があるし、又職業教育も、あまり實際にのみ即し過ぎると人格の低劣な人間を養成するに了る。故に此の二つは巧に調和されることが必要である。實用的職業的の事を教へても、單に専門家、職業家の養成にのみ偏せず、其の間に人格を陶冶する要素を作ることに力を注がねばならぬ。斯くして始めて矛盾性のない完全な人間が出来上るのである。

兎に角産業教育、職業教育は、世界一般の趨勢であつて、殊に獨逸の如きは、最も之に力を注いでゐる。戦争にこそ敗れたが、そして又軍備の上では殆ど丸裸にされたが、産業的には今や世界的に地歩を占めて來てゐる。そして之に刺戟せられた英國でも伊太利でも、これ亦大に産業教育を盛にせんと努力してゐる。我々は此の世界的現勢を見るにつけても、早く四十年前に今日あるを洞察せられて宜はせられたとも見るべき聖勅のお詞に思ひ當る事が多い。「學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ、徳器ヲ成就シ進ンデ公益ヲ廣メ、世務ヲ開キ、常ニ國憲ヲ重ジ國法に遵ヒ」と仰せられた聖訓は、其のまゝ今日の世界的傾向に適合してゐる。此の際教育勅語の御本旨を守つて進むならば、我等は、最も時代に適する教育が出来ると考へる。教育勅語は實に萬古を貫く聖訓である。（要領筆記、文責在溝口生）